

「第10回日中省エネルギー・環境総合フォーラム」調印プロジェクト文書交換式に参加 ～カーバイド炉からの溶融カーバイドの鍋搬送技術の中国への技術協力および技術許諾～

デンカ株式会社（以下、当社）と中国／中化国際（控股）股份有限公司（以下、中化国際社）は、2016年11月26日、中国北京市内で開催された「第10回日中省エネルギー・環境総合フォーラム」（主催：経済産業省、日中経済協会／中国国家発展改革委員会、中国商務部）に参加しました。

当社および中化国際社は、調印プロジェクト文書交換式において、世耕弘成経済産業大臣、宗岡正二日中経済協会会長、徐紹史（じょ・しょうし）国家発展委員会主任、高燕（こう・えん）商務部副部長らのご出席の下、日中間の協力プロジェクトとして、「カーバイド炉からの溶融カーバイドの鍋搬送技術の中国への技術協力および技術許諾」を両社間で締結したことを披露しました。

中国のカーバイド工業は、生産設備の近代化が積極的に進められています。しかしながら、カーバイド炉から2,000℃以上の溶融カーバイドを流し出す作業は、依然として高熱環境下で人力によって行われ、更に流し出したカーバイドを鍋で搬送する作業も、従来からのワイヤー巻取り方式のため人手を要する状況にあります。

当社は、長年に亘りカーバイド生産技術を蓄積、改良し、これらの危険かつ作業への負荷の大きい作業の機械化を、1978年に世界に先駆けて実現しました。

2014年開催の第8回同フォーラムでは、「溶融カーバイドの流し出し技術の中国への技術協力および技術許諾」を文書交換式で披露しました。今回のフォーラムでは、鍋で搬送する作業について、RAC (Run Around Carrier) 方式の遠隔操作技術を協力プロジェクト案件として披露しました。

これら技術の導入によって、中国カーバイド工業の安全・省力化及び安定操業に伴う省エネへ寄与することが期待されます。当社と中化国際社は、技術協力および技術許諾の契約を締結するとともに、中化国際社は中国のカーバイドメーカーとサブライセンス契約を結び、技術移転と普及を進めていきます。

当社は、日本のカーバイド化学のパイオニアとして、培った保安・環境・省エネ・省力化技術を通じて、中国の皆様とのさらなる発展関係を築くとともに、働く人々の安全と地球環境保全に積極的に貢献することによる社会的責任を果たしてまいります。



第10回日中省エネ・環境総合フォーラム
会場：中国北京市 国家會議中心



調印プロジェクト文書交換式
左：当社 河西俊明技術企画室長
右：中化国際社 瞿建波（くわ・けんば）副總經理

本発表の問合せ先：

CSR・広報室 電話：03-5290-5511

以上